瀬谷中だより　１０月号

令和２年１１月１３日

＜学校教育目標＞
○ 自ら学ぶ力の育成と基礎学力の定着　〔知〕
○ 他者を思いやり、礼儀や規律を重んじる態度の育成　〔徳〕
○ 生命を尊ぶ健康な心と体の育成　〔体〕
○ 社会に貢献し、様々な人と関わり合う態度の育成　〔公・開〕

発　行　横浜市立瀬谷中学校
校　長　熊野　一隆
副校長　村上　直幸
住　所　瀬谷区中央５－４１
TEL 301-0096　FAX 301-0099

文化祭、体育祭を終えて

校長　熊野　一隆

冬の寒さが刻一刻と迫り、冬本番が間もなくやってくることを感じさせる季節になってきました。とはいえ、日中、日が差せば秋らしい爽やかな風と燦燦と降り注ぐ太陽の眩しさを感じ、心地の良い季節でもあり、体調管理には十分注意が必要だと感じています。

１０月は大きな学校行事を２つ終えることができました。私の長い教員生活の中でも、文化祭と体育祭を１週間の間に２つやってしまうような計画を立てたことがありません。その意味でも先生方の負担は計り知れない大きさだったと思います。当初はそこまでして行事を行う必要があるのか、根本的に新型コロナウィルス感染防止の観点から、行ってはいけないのではないか、校長として相当に悩みました。

私の教員生活の中で一番大変だったなと思う行事の記憶は、初任の学校でした。体育祭では、応援団に力を入れており、時には教員が夜遅くまで残り、全長２ｍほどのマスコットを作って応援団に花を添えたこともあります。当然毎日夜中まで作業し、終電はなくなっている状況でした。そんな作業を裏庭でしていると生徒が様子を見に来て声をかけてくることもあり、今では懐かしい思い出です。また、当時は文化祭と合唱コンクールを分けて開催し、文化祭のメインは、各クラスが発表する演劇でした。文化祭と合唱コンクールの間が１箇月ほどしか開いていなかったので、それはそれはつらい行事の取組みでした。初任校は、私が着任する少し前まで学校が荒れ、立て直しに大変でした。先生方は「行事と部活で学校を立て直そう」を合言葉に頑張っていました。行事を乗り越えていくことで生徒と先生方の心の距離が近づき、信頼関係も深まっていきました。今では懐かしい思い出です。初任校は学習面も大事にしていましたが、それ以上に行事や部活動を大切にしていたように思います。もしあの時、私が校長で新型コロナウィルスが流行し、行事の開催を悩んだとしても、中止の判断を容易に決断出来なかったと思います。今年になってよく考えることは、行事を通して取り組む活動が、子ども達に与える教育的効果や影響はどれほどなのだろうかということです。

中学校の教育活動の取組みで、「学級活動」や「委員会活動」、また「部活動」それぞれに特徴があり、それぞれの活動でなければ教えられないこと、伝えられないことがあると感じています。特に部活動では、同じ競技や文化活動に興味を持っている生徒が活動を通し、普段の授業等では深めづらい責任感や向上心、また友と切磋琢磨する友情など『生きる力』として大切なものがあります。同じように行事を通した生徒活動の中に、単純な数字では表れてこない生徒個々の「学び」があり、特に中学校ではそれを大切にしています。行事を通し学級の友と誓い合う団結や終えた後の達成感や充実感、日々の授業だけでは伝えきれない大切な「学び」がそこにあると思います。その「学び」を確保しつつ、感染対策も十分に配慮し、残りの下半期を子ども達とともに過ごしていきたいと思っています。

文化祭を終えて

文化祭実行委員長　鳥井瑞月さん

私は３年間、文化祭実行委員を務めてきました。文化祭実行委員は委員会の中で一番と言っていいくらい、大変な委員会だと改めて思いました。今年は特に、コロナウイルスの影響により学校で行うこととなったため、準備だったり、各係の仕事だったり、一人ひとりが大変だったと思います。特に四役、学年代表、司会係の方たちは、放課後遅くまで残るということが何回かあったので、本当に大変だったと思います。その中でも１年生、２年生の学年代表の子たちはすごくしっかりしていて、仕事が次々と出される中、ちゃんとこなせていて本当に助かったし、すごいなと感動しました。

文化祭を終えた後、とても楽しかったなという気持ちもありましたが、やはり、大きな舞台で最後に３年生みんなで有終の美を飾りたかったという願望もありました。その分、来年１、２年生の皆さんが文化祭を楽しんでくれるといいなと思います。

中学校最後の文化祭、文化祭実行委員長という立場になって作り上げてきましたが、本当に大変で、前に出て喋る時は毎回毎回緊張していましたが、本当に良い経験になりました。支えてくれた四役、学年代表、実行委員の皆さん、そして何といっても今年、文化祭を開催できるように準備してくれた先生方、そして個人的には特に放課後残ってアドバイスをしてくれたり、四役をまとめてくださった志賀先生に感謝を伝えたいです。たくさんの方々に感謝が伝わるといいなと思います。本当にありがとうございました。

体育祭を終えて

体育祭実行委員長　上松優海さん

今年はコロナウイルスの中で、そもそも体育祭ができるのかどうかすら心配でした。でも限られた中でも体育祭ができると決まった時、すごく嬉しかったです。「最高の体育祭にします」と言ったのに、できなくなった競技もあって、本当に盛り上がる体育祭になるのかすごく不安でした。でも学年練習からクラスが一丸となって全力で取り組んでいる姿を見て、これなら最高の体育祭になりそうだと不安よりも楽しみの気持ちが高まりました。

本番、全校生徒のみんなが盛り上がって、みんなが全力でクラスのために取り組んでいてすごく嬉しかったです。皆さんのおかげで最高の思い出になるような体育祭になりました。

来年は、１，２年生の皆さんが体育祭を作っていく番です。今年よりもっといい体育祭を作ってくれると期待しています。応援しています。頑張ってください。私はこの体育祭で委員長をして、不安な気持ちがたくさんあったし、考えることもたくさんありました。でも、こうして最高の体育祭を終えることができて、今振り返ると委員長をやってすごくよかったです。委員長という立場を通して、人の前に立つ人間としてどうするべきなのか、努力を人に感謝される嬉しさ、達成感をすごく学びました。